

平成28年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 「科学技術賞（開発部門）」受賞

2016年4月20日に行われた平成28年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において、イノベーション統括部の栄藤 稔氏、サービスイノベーション部の磯田 佳徳氏、吉村 健氏、NTTメディアインテリジェンス研究所の東中 竜一郎氏の4名は、「音声エージェントサービスの開発」への功績により「科学技術賞（開発部門）」を受賞しました。科学技術分野の文部科学大臣表彰とは、「科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする」もので、この中で科学技術賞（開発部門）とは、「我が国の社会経済、国民生活の発

展向上等に寄与し、実際に利活用されている（今後利活用が期待されるものを含む）画期的な研究開発若しくは発明を行った者を対象」とするもので、文部科学大臣から授与されます。

ドコモからは、平成25年度に「S帯を用いる国内衛星移動通信システムの高度化に関する開発」、平成26年度には「標準化活動への貢献を含むLTEシステムの開発」、平成27年度には「ISDB-Tmmマルチメディア放送方式の開発」により本賞を受賞しており、4年連続での受賞となります。

受賞の対象となった「音声エージェントサービス」とは、自然言語ユーザインタフェースにより、ユーザの厳密なルールがない多様な発話からユーザの意図をくみ取り、適切なアプリケーションを起動したり、情報検索の結果を応答したりすることを可能にするものです。これにより、「しゃべってコンシェル」を実現し、日本ならではの多種多様なコンテンツと連携した提供機能の広さと、知識Q&Aのような他のサービスにはないユニークな機能が評価されて、3600万人以上に利用され、アクセス数は14億回を超えるまでに至っています。さらに、カーナビゲーションアプリの音声入力操作や対話玩具への展開など、他のアプリケーションやデバイスにも応用の範囲を広げており、入力手段に制約がある状況での入力インタフェースの実現やデジタルデバインドへの対策に寄与していることが認められ、今回の受賞となりました。

